

■ 概況

12/6~12/12のNYMEX・WTIは、51.00~52.61ドルの範囲で推移した。

12月13日は、国際エネルギー機関(IEA)月報が、2019年の需要見通しを据え置いた一方、供給を下方修正、下期には供給不足もありうるとの観測を伝え、クッシングの原油在庫減少の報告もあり、大幅反発した。1月限終値は前日比1.43ドル高の52.58ドル。

週末14日は、中国の低調な経済指標や米国の株安など経済の先行き不安の高まり、ドル高・ユーロ安の進行により、売り込まれ、大幅下落した。同日発表のペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は873基(前週比4基減)と減少したが、大きな影響はなかった。1月限終値は前営業日比1.38ドル安の51.20ドル。

週明け17日は、前週末の中国や欧州に加え、米国の経済指標(NY州製造業景況指数)も低調で経済の先行き不安がさらに深まり、また、シェールオイルの増産傾向も意識され、大幅続落し、終値ベースで2017年10月9日以来1年2ヶ月ぶりに50ドルを割り込んだ。1月限終値は前週末比1.32ドル安の49.88ドル。

18日は、世界的に景気停滞感が広まる中、ロシアの12月産油量が過去最高を記録するなど減産に対する懐疑的見方や米国シェールオイルの増産観測など供給過剰感も高まり、大幅続落した。1月限終値は前日比3.64ドル安の46.24ドル。

19日は、米国エネルギー情報局(EIA)週報の原油・石油製品在庫の前週比減少を好感した買い、ドル安・ユーロ高の進行により、4営業日ぶりに反発した。1月限終値は前日比0.96ドル高の47.20ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(2月渡し)は、前週58.10~60.60ドルの範囲で推移した。12月13日59.20ドル、14日59.70ドル、17日59.10ドル、18日57.30ドル、19日55.30ドルで推移した。

為替は、前週112.52~113.54円の範囲で推移した。12月13日113.42円、14日113.61円、17日113.47円、18日112.79円、19日112.50円で推移した。

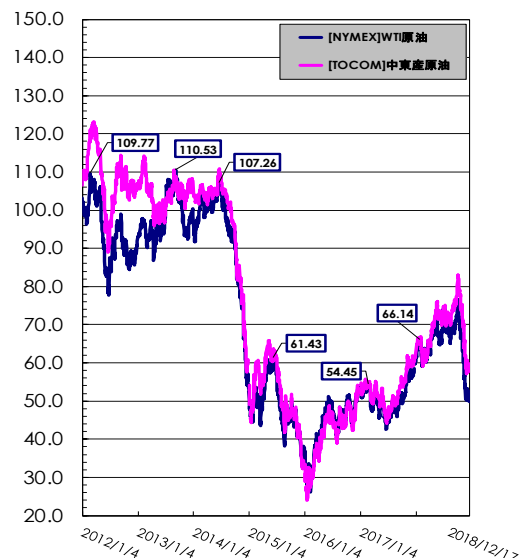
財務省が19日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月下旬の原油輸入平均CIF価格は、58,657円/klで、前旬比882円高、ドル建てでは82.05ドルで前旬比0.74ドル高。為替レートは1ドル/113.65円だった。財務省が同日発表した貿易統計(速報・月間)によると、11月の原油輸入平均CIF価格は、58,101円/klで、前月比1,879円高、ドル建てでは81.74ドルで前月比2.57ドル高。為替レートは1ドル/113.00円だった。

主要元売会社の12月第3週に適用する卸価格は、ガソリンが据え置きと1.0円の値下げ、軽油・灯油が据え置きと0.5円の値下げに分かれた。原油価格はわずかに値上がり、為替レートの円高がこれを相殺したが、原油調達コストは横ばいとなった。

そのような中で、12月17日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.4円の値下がり、軽油も同1.2円の値下がり、灯油も同19円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、8週連続の値下がりだった。この週(12月第2週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに1.5~2.0円の値下げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/9 ~ 12/15	3,530 ▼ -57	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	90.1 ▼ -1.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	12/15	12,613 ▼ -1,417	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	12/17	58.52 ▼ -1.33	▼ -1.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/17	49.88 ▼ -1.12	▼ -7.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月下旬	82.05 ▲ 0.74	▲ 24.29
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	58,657 ▲ 882	▲ 17,407
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.65 ▼ -0.68	▼ -0.12
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/17	114.47 ▼ -0.95	▼ -0.71

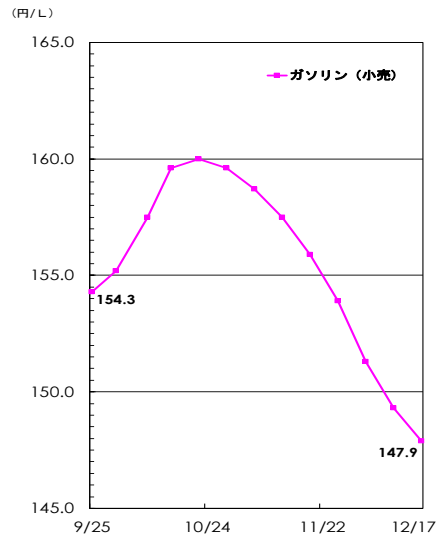
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/9 ~ 12/15	998 ▲ 32	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	899 ▼ -27	▼ -	
	輸出	"	142 ▲ 39	▲ -	
	在庫	12/15	1,652 ▼ -43	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/11 ~ 12/17	56.7 ▼ -1.1	▼ -1.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/11 ~ 12/17	53.6 ▲ 0.5	▼ -4.1
		(TOCOM/中部)	12/17	55.6 ▲ 0.1	▼ -1.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/17	147.9 ▼ -1.4	▲ 6.4	

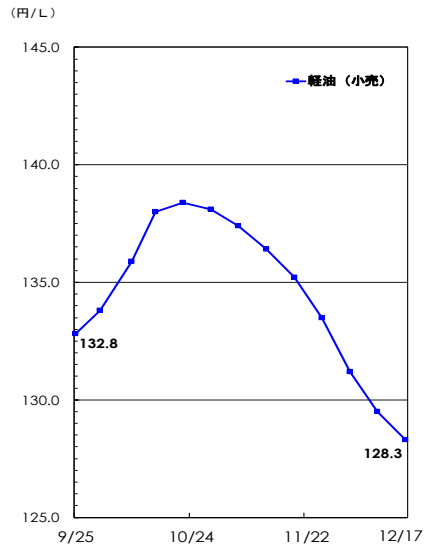
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

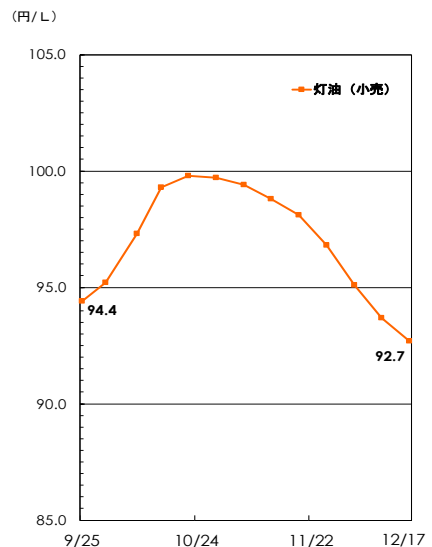
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/9 ~ 12/15	769 ▼ -160	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	562 ▼ -210	▼ -	
	輸出	"	329 ▲ 164	▲ -	
	在庫	12/15	1,636 ▼ -122	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/11 ~ 12/17	60.6 ▼ -0.6	▲ 2.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/11 ~ 12/17	62.1 ▼ -0.6	▲ 4.1
		(TOCOM/中部)	12/17	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/17	128.3 ▼ -1.2	▲ 8.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/9 ~ 12/15	292 ▲ 4	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	483 ▲ 178	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	12/15	2,614 ▼ -191	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/11 ~ 12/17	59.1 ▼ -0.8	▼ -1.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/11 ~ 12/17	58.2 ▼ -0.2	▼ -1.9
		(TOCOM/中部)	12/17	60.2 ▲ 1.2	▼ -0.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/17	92.7 ▼ -1.0	▲ 8.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

12月19日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報が、原油在庫が市場予想(前週比240万バレル減)を下回ったものの同50万バレル減と2週連続の取り崩しになったこと、中間留分在庫も同420万バレルと市場予想(同60万バレル)を大きく上回ったことを好感した買いが入るとともに、ドル安・ユーロ高の進行により原油先物に割安感が出たことから、4営業日ぶりに反発した1月限終値は前日比0.96ドル高の47.20ドル、2月限の終値は前日比1.57ドル高の48.17ドルだった。

EIAによると、12月17日時点のガソリンの小売価格は、前

週比5.2セント値下がり1ガロン2.369ドル(71.5円/ℓ)、ディーゼルは前週比4.0セント値下がり3.121ドル(94.2円/ℓ)となった。ガソリンは10週連続の値下がり、ディーゼルは9週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年12月9日～12月15日に休止したトッパー能力は0.0万バレル/日で、前週に対して変化ない。(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は353.0万klと、前週に比べ5.7万kl減少。前年に対しては23.4万klの減少。トッパー稼働率は90.1%と前週に対して1.5ポイントの減少、前年に対しては6.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/3.3%増、ジェット/29.2%増、灯油/1.5%増、軽油/17.3%減、A重油/0.0%減、C重油/14.1%減。今週のC重油の輸入は4.8万kl(前週比1.1万kl増)。軽油の輸出は32.9万kl(前週比16.4万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では灯油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではA重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は89.9万kl(対前週2.9%減)と前週比で2週振りで減少となり、15週連続で100万klを下回った。ジェット4.4万kl(対前週

37.1%減)、灯油48.3万kl(対前週58.4%増)、軽油56.2万kl(対前週27.2%減)、A重油27.3万kl(対前週5.8%増)、C重油15.7万kl(対前週18.3%減)。

(単位:千kl)

	今週 (12/9 ~ 12/15)	前週 (12/2 ~ 12/8)	前週比	
ガソリン	899	926	▼ -27	(-3%)
ジェット燃料	44	70	▼ -26	(-37%)
灯油	483	305	▲ 178	(58%)
軽油	562	772	▼ -210	(-27%)
A重油	273	258	▲ 15	(6%)
C重油	157	192	▼ -35	(-18%)
合計	2,418	2,523	▼ -105	(-4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月15日時点の在庫は、ジェット、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリンが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは165.2万kl、前週差4.3万kl減。前年に対しては2.6万kl少ない。

灯油は261.4万kl、前週差19.1万kl減。前年に対しては22.3万kl多い。

軽油は163.6万kl、前週差12.2万kl減。前年に対しては22.4万kl多い。

A重油は84.2万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては17.6万kl多い。

C重油は201.9万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては5.2万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (12/15)	前週 (12/8)	前週比	
ガソリン	1,652	1,695	▼ -43	(-3%)
ジェット燃料	1,044	1,031	▲ 13	(1%)
灯油	2,614	2,805	▼ -191	(-7%)
軽油	1,636	1,758	▼ -122	(-7%)
A重油	842	867	▼ -25	(-3%)
C重油	2,019	1,986	▲ 33	(2%)
合計	9,807	10,142	▼ -335	(-3.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月11日から12月17日の原油価格は、週対比でやや値下がりし、為替レートの円安がこれを相殺し、原油コストはほぼ横ばいだったものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン110円台で緩やかに値下がり、軽油60円台で緩やかに値下がり、灯油59円台で小幅な値動きで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン110~111円台でわずかに値下がり後ほぼ横ばい、軽油62円台で値上がり、灯油57円台で出入り後値下がりして推移した。

り、灯油57円台で出入り後値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン106~107円台で値上がり後小動き、軽油61~62円台で値上がり、灯油57~58円台で値上がり後やや値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに据え置きと0.5円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、先物のガソリン・海上の灯油を除き、他の取引は値下がりした。

12月第4週(12月20日~12月26日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(12月11日~12月17日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.1円の値下がり、灯油も0.8円の値下がり、軽油も0.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.7円の値下がり、灯油が0.6円の値上がり、軽油は0.5円の値下がりだった。

先物価格は、ガソリンが0.5円の値上がり、灯油は0.2円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。

原油価格は値下がりし、為替の円安が一部相殺したが、原油コストは値下がりした。

12月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きと0.5円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位:円/%)

陸上ローリー 4地区平均	今週 (12/11 ~ 12/17)	前週 (12/4 ~ 12/10)	前週比
レギュラー	56.7	57.8	▼ -1.1
灯油	59.1	59.9	▼ -0.8
軽油	60.6	61.2	▼ -0.6

(TOCOM) (単位:円/%)

期近物/終値 [平均]	今週 (12/11 ~ 12/17)	前週 (12/4 ~ 12/10)	前週比
レギュラー	53.6	53.1	▲ 0.5
灯油	58.2	58.4	▼ -0.2
軽油	62.1	62.7	▼ -0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/11~12/17実績値) (単位:円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.1	▲ 0.5	▼ -0.3
灯油	▼ -0.8	▼ -0.2	▼ -0.5
軽油	▼ -0.6	▼ -0.6	▼ -0.6
A重油	▼ -0.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.4円安の147.9円、軽油も同1.2円安の128.3円、灯油は同1.0円安の92.7円(18%ベースでは19円安の1,668円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに8週連続の値下がりだった。4週連続で、都道府県別に、ガソリンの値上りはなし、横ばいもなし、値下がりは47都道府県全てだった。全国最安値は愛知県の141.9円(前週比1.1円安)、次が142.3円の埼玉県(同1.6円安)、最高値は長崎県の162.3円(同1.9円安)であった。値上がりした県はなく、横ばいの県もなく、最も値下がりしたのは2.7円安の富山県(145.0円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きと0.5円の値下げに分かれた。今週は、原油価格がやや値下がりし、為替レートの円安がこれを一部相殺し、原油コストは値下がりした。次週(12月25日)のガソリン・灯油の小売価格は値下がり予想される。

(単位:円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/17)	前週 (12/10)	前週比	直近高値
レギュラー	147.9	149.3	▼ -1.4	08/8/4 185.1
灯油	92.7	93.7	▼ -1.0	08/8/11 132.1
軽油	128.3	129.5	▼ -1.2	08/8/4 167.4

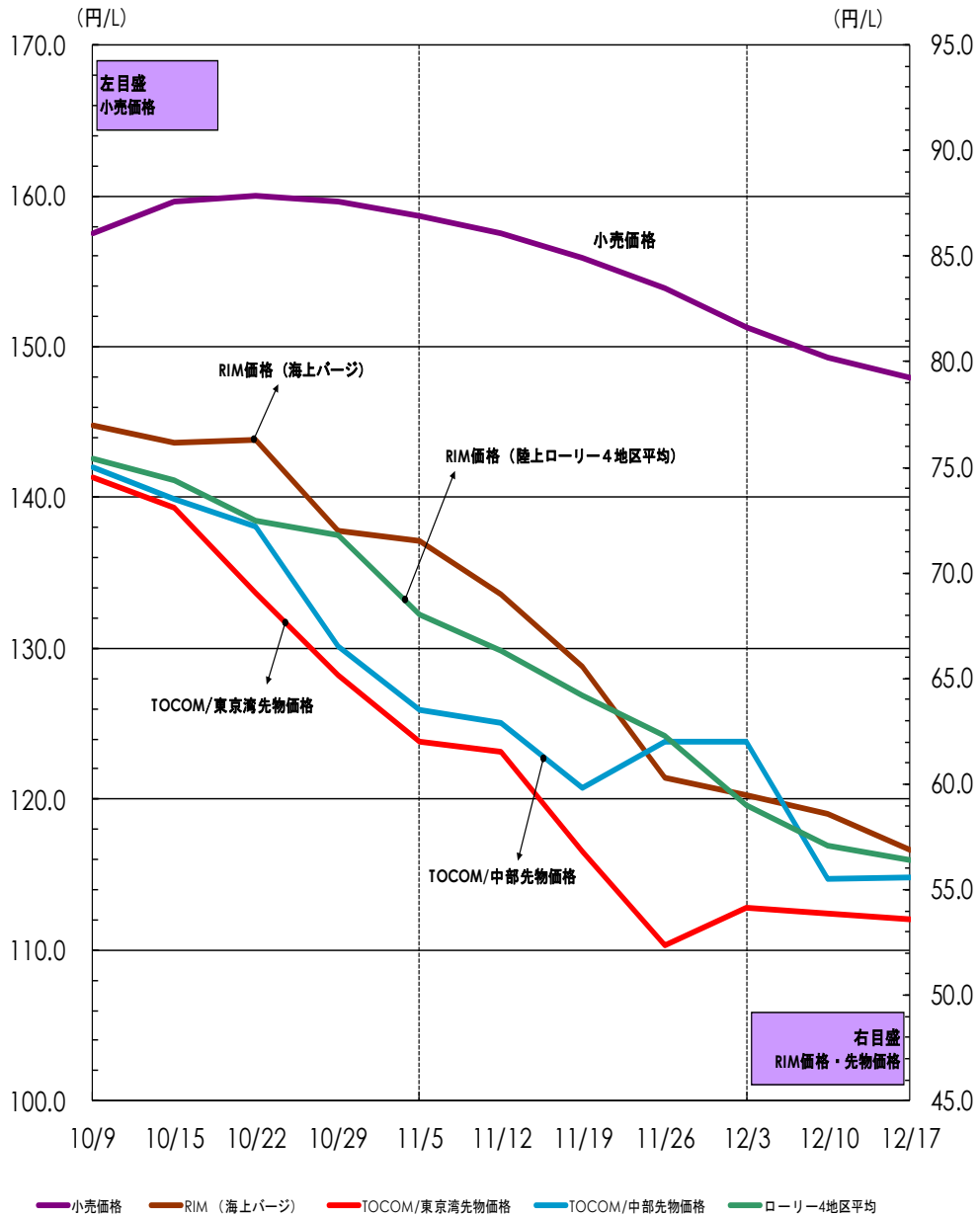
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/10/9 ~ 2018/12/17)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第37号)の公表は、12/28(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。